

「広島に行つて」

高麗川小学校 河原 心渚

私は、今回広島に行つて、原爆のおそろしさ、広島の復興、この二つを学びました。一つ目は、原爆のおそろしさです。広島には、昭和二十年八月六日午前八時十五分に一発の原爆が投下され、広島は火の海に変わつてしまつたのです。橋の上・川は、死体でいっぱいになり、背中にやけどを負つた女性や性別が分からない子どももの死体など、この原

爆で亡くなつた人は、およそ十四万人にもものぼるそうです。そして、全国こども平和サミットで被爆者の方が話をしてくれました。『三年生の姉と朝のそうじをしていた時に被爆。爆風が襲いかかり柱や天井が崩れ、死に物狂いで崩れた天井の上にはいあがり出る事ができ、そして、一生けんめい山の上までにげた。そこには、ガラスが五十個以上ささつて、血だらけになつている母とすでに亡くなつている姉に再会した。姉は少しほほえんでいるよ



うな顔でした。という、被爆者の方の話聞いて私は、心が苦しくなり同時に、原爆のおそろしさを知り、改めてこわいと思いました。二つ目は、広島の復興です。広島は、一度は、原爆が投下され、火の海に変わり果ててしまいました。けれど、軍隊の人達と協力し、数十年かけて、無事復旧しました。その間に広島東洋カープも誕生し、カープの成長と共に復興しました。『折る平和』ではなく、『つくる平和』へ。私は、原爆が投下されてから

数十年で復旧・復興したと知って、早くてすごいと思いました。

最後に、広島平和記念式典に参加した感想です。式典には、朝早くから並んで、少し緊張しました。外国人の方も沢山いて、大勢の人が参加していると思うと、少しほっとしました。式典が始まると、会場がシーンとして、緊張が走りました。始まって少したったら、八時十五分に黙とう、その時は、七くなってしまっただ人の事を考えながら、黙とうをする



事ができました。広島市長の「平和宣言」で  
言った「思いを同じくする世界の人々と共に、  
これから力を尽くすことを誓います」の言  
葉に、すごく、感銘を受けました。そして、  
子ども代表の「平和への誓い」を聞いて、感  
動しました。特に、「On the Voice」  
たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いをこ  
めて伝えれば、変化をもたすことができる  
はずです。と次の「大人だけでなく、子供で  
ある私達も平和のために行動する事ができま

す」の二つの文に、沢山の思いがこめられて  
いるのが分かりました。子ども代表の二人は、  
私と同じ年なのに、平和の事を私が考えてる  
以上に考えていて、自分達よりも大人に見え  
ました。私も式典に参加した事で感じた平和  
の事を、沢山の人達にしっかり伝えていき  
たいです。

今回、貴重な経験をさせていただき、あり  
がとうございました。